

# えがお 愛顔を被災地へ届けたい

# ヤンボラ新聞

ヤングボランティアセンター

## No.5

平成23年3月18日発行  
松山市堀之内  
愛媛県美術館南館内  
TEL-FAX 089-932-0160  
メールアドレス  
youngvolheim07@yahoo.co.jp

## 高校生が今できることを 東日本大震災に対するヤンボラの取組

平成23年3月、東北地方は東日本大震災による甚大な被害を受けた。ヤンボラでは「震災支援を考える」を23年度のテーマとしてボランティア活動に取り組んだ。

### 福音公園に応援メッセージパネルを制作

昨年3月26日、松山市福音公園にアートパネルと被災地へのメッセージパネルを設置した。福音公園は国道11号線小坂交差点高架下であり、光が遮られることから「楽しいけれど怖い」と子どもたちが感じているところである。この課題を解決するため、福音小学校や地域の方々、NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構とともに企画・実践した活動が「福音公園づくりボランティア活動」である。

アートパネルは縦4m横3mの大きさで、県立松山西中等教育学校の美術部員がデザインし、福音小学校児童による手形六百個がタンポポや蝶の図案に使用されており、非常にカラフルで明るい作品に仕上がった。

アートパネルの完成直前に東日本大震災が発生



→福音公園に設置したアートパネル

した。小学生・高校生ともに、被災者を勇気づけたいという共通した思いがあり、急ぎよもう一枚パネルを制作した。手形によるハートを囲むように「日本の力をみせつけてやりましょう」や「どんな困難にも負けずに」といった小学生による手書きの被災地へのメッセージが綴られた。

公園に遊びに来た小学生は、完成したパネルの手形に自分の手を合わせると、完成したパネルの出来上がったパネルを手にした。活動に参加した武智一晃さん(東温高2年)は、「アートパネルで公園の雰囲気明るくなったと思う。また、被災地へのメッセージパネルは、今も見るたびに、同じ国で震災にあった人がいるんだ、と改めて自覚させられる



→併設した応援メッセージ

### 東日本大震災復興支援高校生講座

平成23年7月2日「被災地の実情を知りたい」という声がスタッフ会議で出たことから、宮城県へ派遣された松山東高等学校養護教諭の上田知子先生を講師に迎え、被災地の様子を学び、これから自分たちにできることを考える高校生講座を開いた。



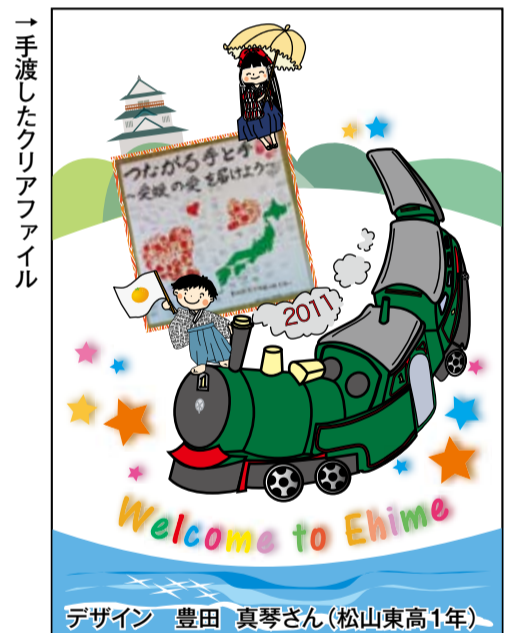
16名の高校生が参加

## 被災地からの修学旅行生と交流

### 笑顔の思い出作りをお手伝い

平成23年10月30日に被災地からの修学旅行生第二団として、岩手県立大槌高校の生徒が松山城を訪れた。ヤンボラでは、高校生スタッフがデザインしたクリアファイルに手書きのメッセージカードを添えて手渡すとともに、「シャッターボランティア」や「甲冑着付けボランティア」を通して交流活動を行った。

東日本大震災の発生から半年が過ぎたころ、「えひめ愛顔(えがお)の助け合い基金」を活用した修学旅行生が来県するというニュースが飛び込んできた。全国で多くの人がボランティアに参加し、被災地の復興に力を尽くしている中、私たちヤンボラの高校生もできることをずっと探していたが、愛顔で活動できる機会が訪れたのだ。



→手渡したクリアファイル

た。先生が撮影された被災地の写真が映し出されると、被害の深刻さが伝わり、震災の現実や避難所となった学校の様子に言葉もなく引き込まれてしまった。



自分の意見を整理する参加者

講演の後、4つのグループに分かれて意見交換をした。まず、各自でどんな感想や意見を書きこんでいき、その後グループ内の意見をまとめて、キーワードを出し合った。どのグループからも、高校生らしい意見が出された。多かったキーワードは「Thanks」、「Smile」だった。何気ない日常への感謝の気持ちや、被災地の方に笑顔をとりたいという思いが伝わった。



グループごとの意見交換の様子

### 講演をしていた上田知子先生の話

参加者のみなさんが関心を持って真剣に話を聞いてくれたので、心強く感じました。若いパワーがみなぎっているみなさんはそこにいるだけで周りに元気を与えることができます。いつか被災地と関わる機会があれば、何かしら小さなことで構いませんので、心の傷を癒してあげてください。被災地で私はボランティアをしている人同士のふれあいの素晴らしさを知りました。人のために何かできるということは、とても幸せで素敵なことです。長くボランティアと付き合い、自分も豊かになってください。



ことを、身を持って体験することができた。私たちにどう見慣れた松山城で、大槌高校の生徒のみなさんの写真を撮ったり、お互い笑い合っている姿を見て、今まで以上に松山城が素敵なものに見えた。今回のボランティアに参加したヤンボラスタッフ27名も同じように感じたのではないかと。



修学旅行生を迎えるスタッフ

たった一枚のファイルですが、修学旅行の思い出の品として、また何かつらいことがあった時などに、たくさんの方が力になりたいと思っていることを思い出してほしいです。



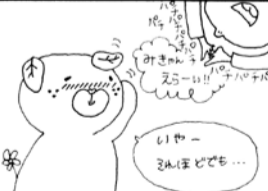
甲冑の体験をする修学旅行生(中央)

### クリアファイルをデザイン 豊田真琴さんの話

いだらうか。大槌高校のみなさんが修学旅行から地元に戻って、ふとそのファイルとしおろりを見たときに、笑顔がこぼれる瞬間があればいいな、と思った。

デザインは、スタッフ会議で出たアイデアをもとに始めました。「愛媛らしいものに」「どこかにミカンを描こう」「坊っちゃんやマドンナを入れたら」など、喜んで使ってもらえるデザインにしたいと思い、手元の資料にとらめっこしながら描きました。線画に色が付いて、デザインが実際にファイルになったときはとてもうれしく思いました。当日手渡すのは緊張しましたが、みんな笑顔で受け取ってくれたのでよかったです。

### みきゃんの自慢



# 仲間と明日をつくる

## 区立宿舎小学校 通学合宿

平成23年10月26日、松山市立宿舎小学校の4、5、6年生の児童20人が余土公民館市坪分館に集まり、3泊4日の通学合宿にチャレンジした。

### 3回目の通学合宿 地域の方と共に

通学合宿の高校生スタッフ「作戦会議」は、8月の半ばからスタートした。第一回ミーティングは、それまでにあまり顔を見なかった仲間と顔を合わせたことのない人ばかりでとても緊張した。ミーティングでは、まず昨年の堀江通学合宿のPRビデオを見て、今回はどんなビデオをつくるか考えたり、大まかな合宿中のスケジュールを考えたりした。

次の段階になると、高校生スタッフ全員がすっかり打ち解けて、話し合いもスムーズに行えるようになった。私たちが特に時間をかけて話し合いをしたのは、毎食のメニューと、合宿4日目に実施するスポーツ大会についてだった。合宿期間中小生に健康で楽しく過ごしてもらうためには、おいしくかつ栄養のバランスも考えたメニューを決めていく必要がある。また、小学生の買い出しに高校生は学校があつて付き添えないので、分量も分かりやすいようにしておく必要があった。4日目のスポーツ大会は、どこで何をやるかなかなか決まらずに大変だったが、合宿最終日にふさわしい盛り上がるイベントになるよう一生懸命アイデアを出し合った。こうして、6回のミーティングを重ねて本番を迎えた。



通学合宿の初日、入所式の後、小学生とともに班をつくった。最初はぎこちない自己紹介から始まったが、途中から皆が楽しんでいる様子が見えてきた。その姿を見てひとまず安心することができた。

2日目の朝、いつもより早起きしたヤンボラスタッフは、地域の婦人会の方と一緒に40人分の食事をつくった。手際よく調理していく婦人会の方の助けがなければできなかっただろう。夜は近くの温泉へ行き、高校生が入浴指導を行った。心配していたが、小学生も協力して静かに入浴をすませることができた。

3日目は公民館での生活にも慣れ、だんだん高校生スタッフと小学生との距離が近くなってきたのを感じた。

最終日は朝食後に全員でおにぎりをつくり、お弁当を作った。体育館でのドッジボールや手つなぎ鬼で遊んだ後、お弁当を食べた。皆で協力して作ったお弁当は、想像していたよりもよく、とてもおいしかった。

あつという間に過ぎた4日間、楽しい思い出とともに心に残ったものがあつた。

今回の合宿で子どもに対する指導法とチームワークの重要性を学びました。9人の高校生スタッフのうち二人でも欠けていれば、この合宿を成し遂げることはできなかったと思います。精神面での疲労も、夜の語り合いで解消することができました。ボランティアは人のためでもあるけれど、本当は自分の成長の糧になることを知りました。

仲間と遊んだり、買物や料理をしたりと、楽しいことだらけでした。新しい友達もでき、話がでなかった人にも話しかけられるようになり、とてもうれしかったです。これからも新しい友達をつくり、みんなで協力したいです。

### 〈参加者の感想〉

(小学校5年女子) 料理をしたりと、楽しいことだらけでした。新しい友達もでき、話がでなかった人にも話しかけられるようになり、とてもうれしかったです。これからも新しい友達をつくり、みんなで協力したいです。



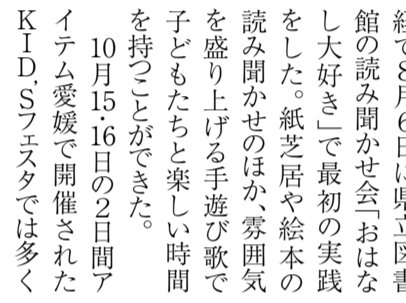
→高校生と調理する小学生



→参加者全員笑顔で退所式

# 読み聞かせ活動を継続

平成21年度から取り組んでいる読み聞かせボランティアに今年も挑戦した。「おはなし☆グミ」の丸山康子先生を講師に迎え、7月30日に読み聞かせ講習会を開催し、練習会を経て8月6日に県立図書館の読み聞かせ会「おはなし大好き」で最初の実践をした。紙芝居や絵本の読み聞かせのほか、雰囲気盛り上げる手遊び歌で子どもたちと楽しい時間を持つことができた。



手遊び歌を演じる様子



キッズフェスタでの実演

## シャツターボランティア大好評

観光客の方と言葉を交わしながら記念撮影のお手伝いをする「シャツターボランティア」や、松山城天守閣内での「甲冑着付けボランティア」を計8回行った。い、のべ122名のスタッフが参加した。

愛媛に来てくれた方のおさまるとしても嬉しく感じた。甲冑の着付けも大盛況で、貴重な体験に顔をほころばせてくれたり、子どもが喜んでくれたりしている姿を見ると、この活動に参加してよかったと実感した。



よしあきくんの前がポイント



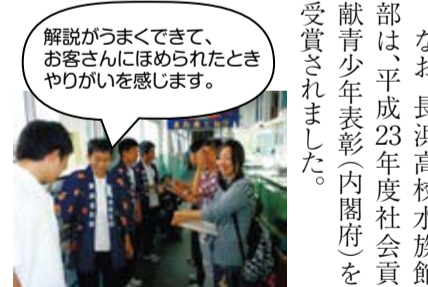
来島海峡展望館 (今治)



子ども用甲冑の着付けの様子

## ボランティア交流

6月18日に長高水族館を訪ねた。メインのカクレマノミの繁殖水槽やサングの水槽は観察の仕方にも工夫され見応えがあつた。また、水族館部は商店街のイベントにも積極的に参加し、町おこしにも一役買っている。



献血呼びかけ

これからこの血液が多くなると人々の命を救うととてもうれしく思います。

12月10日に余土小学校体育館で行われたクリスマス会に参加し、レクリエーション協会のインストラクターの方と共に、小学生と一緒に汗をかきながらゲームの補助をした。

## 福音公園づくり 2年目の活動へ

子どもたちが明るく元気に遊べる公園にするために、「大人の目によって守られた全天候型の楽しい公園にする」というコンセプトのもと、ヤンボラの高校生も昨年公園づくりに参加しています。

第1回会議(12月18日)では、アート作品の制作と地域の人や子どもを呼ぶイベントを行うことを決定しました。その後、第2回会議(1月4日)、第3回会議(1月21日)、小学校や地元への説明会(1月26日)を経て準備を重ねています。

アート作品の公開と、オープニングイベントは3月末の予定です。

- ヤンボラの活動にご協力いただいた方々
- NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構
- 余土公民館市坪分館
- 松山市立宿舎小学校
- 宿舎小学校PTA
- 市坪町内会
- 市坪子ども会
- 市坪婦人会
- 市坪平成クラブ
- 福音公園を考える会
- 松山市立福音小学校
- 愛媛県立図書館ボランティアグループ「おはなし☆グミ」
- えひめ紙芝居おはなし会
- 伊予鉄道株式会社鉄道部
- 松山城総合事務所
- 今治市産業部観光課
- 来島海峡展望館
- 愛媛県赤十字血液センター
- 大街道献血ルーム
- 愛媛県立みなら特別支援学校PTA
- 愛媛県立長浜高等学校水族館部
- 余土南川地区第一町内会・子ども会
- 八幡浜元気プロジェクト
- 松山市ボランティアセンター

## 編集後記

所属する学校がそれぞれ異なる、活動は休日に限られる。でも誰かのために何かできることを考えてやってみよう。そういう気持ちを持った高校生がヤンボラで活動を始めて5年が過ぎました。

昨年3月に東日本大震災の被災地に対して、いち早く応援メッセージを制作したのもその気持ちのあらわれでした。また、ヤンボラ主催の取組として始めたシャツターボランティアを生かして、被災地からの修学旅行生に支援の気持ちを届けることもできました。もっと楽しく高校生らしいボランティア活動を広げていくために、これからもご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

## ヤングボランティア スタッフ募集!!

〒790-0007 松山市堀之内 愛媛県美術館南館内  
Tel・Fax: 089-932-0160  
Mail: youngvol@hime07@yahoo.co.jp

くわしくはホームページをご覧ください。

ヤンボラ

## 《新聞作成スタッフ》

- 川上 苑華(北条)
- 大西美奈子(北条)
- 山内 玲奈(北条)
- 高橋 奈々(松山東)
- 豊田 真琴(松山東)
- 水本 結菜(松山北)
- 尾脇 優菜(松山北)
- 白方 絢子(松山中等)
- 檜田亜実奈(愛大附属)
- 森河 佳帆(愛大附属)